

近畿地区会議ニュース



No. 31 ◆ March 2022

Kinki District Branch

令和3年度 日本学術会議

近畿地区会議の活動について

近畿地区会議代表幹事

第3部会員 小山田 耕二

(京都大学学術情報メディアセンター・教授)

第25期の日本学術会議がスタートして、早いもので、すでに1年半近くが経ちました。第24期代表幹事を務められた伊藤公雄先生の後を受けて、私が第25期の代表幹事ということになりましたが、その間、十分に職責を果たせたかどうか、心もとない限りです。多くの方々のサポートのもと、ここまでやって来ることができたというのが実情です。コロナ感染の影響で会議が原則オンラインになっており、会議後の意見交換が不十分になってしまっていることを残念に思いますが、第6波が過ぎ去り、以前ほどではなくても日常を取り戻せることを祈っております。

日本学術会議は全国を7地区に分け、会員及び連携会員をもって組織された地区会議を運営しております。第25期の近畿地区在住の会員及び連携会員は、424名（令和4年2月時点）という大世帯です。そして会員及び連携会員の方々には、それぞれの研究機関において指導的役割を果たしていただいております。地区会議運営要綱は、その目的を、第2条に「日本学術会議の諸活動を地区内の科学者等に周知徹底し、及び日本学術会議に対する意見、要望を汲み上げて日本学術会議と科学者との意思疎通を図るとともに、地域社会の学術の振興に寄与すること」と定めています。そういう意味で、地区会議は地域社会の学術・文化の振興を担う基本単位として機能する必要があります。

近畿地区会議は、地区運営協議会を毎年2月頃開催し、その運営方針を審議し決定しています。令和3年度は、学術講演会のテーマとして幾つか提案されたものの中から、SDGsにふさわしいテーマで

「カーボンニュートラル」を開催しました。今回のテーマにおいては、近畿地区会議委員の下條真司先生（大阪大学教授）、第1部会員大久保規子先生（大阪大学教授）など多くの方々のご努力で実現したものです。

講演会の詳細についてはここでは申し上げませんが、カーボンニュートラルについて、様々な角度から、将来を見据えた興味深い議論ができたと思います。本号の学術講演会報告を見ていただければと思います。令和3年度の学術講演会は、これ1回のみでしたが、令和4年度もこれに続いて、地区の皆様方にとって興味深いテーマを選び開催したいと思っています。このような学術講演会は、近畿地区独自の学術文化懇談会との密接な連携に基づいたもので、このような協働体制に基づく活動によって、一般市民の方々にも日本の学術のあり方とその社会貢献の姿を広く知っていただく機会にしたいと願っています。

以上、簡単ではありますが、近畿地区会議の活動を紹介させていただきました。今後の近畿地区におきます日本学術会議の事業につきましては、ご意見、ご提案がございましたら、是非、会員、連携会員、また地区会議運営協議会委員の先生方、あるいは近畿地区会議事務局（京都大学研究推進部研究推進課内）まで、お寄せいただければと思います。皆様方のご協力を切にお願い申し上げます。

令和3年 日本学術会議近畿地区会議学術講演会

「カーボンニュートラル：2050年までに何をすべきか」 (Web開催)**実施概要**

日 時：令和3年9月20日（月・祝） 13時00分～17時00分
主 催：日本学術会議近畿地区会議、京都大学
後 援：公益財団法人 日本学術協力財団

プログラム

開会の挨拶

小山田 耕二 日本学術会議近畿地区会議代表幹事・日本学術会議第三部会員・
京都大学学術情報メディアセンター教授

日本学術会議副会長挨拶

高村 ゆかり 日本学術会議副会長・東京大学未来ビジョン研究センター教授

趣旨説明

下條 真司 日本学術会議第三部会員・大阪大学サイバーメディアセンター長

講演

基調講演 「カーボンニュートラル — 持続可能な社会に向けて」
大久保 規子（日本学術会議第一部会員・大阪大学大学院法学研究科教授）

話題提供1 「住まいの脱炭素化への取り組み」
近田 智也（積水ハウス株式会社 環境推進部長兼温暖化防止推進室長）

話題提供2 「長期気候緩和シナリオ研究とカーボンニュートラル」
藤森 真一郎（京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻准教授）

話題提供3 「Z世代と気候変動」
内藤 光里（京都大学大学院地球環境学堂地球環境政策論分野・
Fridays For Future Japan）

パネル討論・全体総括

コーディネータ：

下條 真司（日本学術会議第三部会員・大阪大学サイバーメディアセンター長）
上記の講演者に加えて、
永田 綾（京都市環境政策局地球温暖化対策室エネルギー政策部長）
西谷 公孝（日本学術会議連携会員・神戸大学経済経営研究所副所長）

閉会挨拶

高山 佳奈子 日本学術会議第一部会員・京都大学大学院法学研究科教授

総合司会

村山 美穂 日本学術会議第二部会員・京都大学野生動物研究センター教授

講演の概要

カーボンニュートラルは、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすることである。ここで、「排出を全体としてゼロ」とは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量から、森林などによる吸収量を差し引いた、実質ゼロを意味する。カーボンニュートラルの2050年実現に向けて、政府や関係省庁は、電化の促進、電源の脱炭素化、再生可能エネルギーの最大限の導入、地域での再エネ倍増に向けた取組など、さまざまな技術の社会実装施策を打ち出している。

今回の学術講演会では、こうした新たな技術の発展の中で、科学者と市民、自治体、産業界がどのように取り組んでいけるのか、対話を深めたいと考える。特に、関西では、万博を控えて、未来をリードすべく、さまざまなステークホルダー、あらゆる世代との議論にしていきたい。

〔文責：小山田 耕二〕



開催報告

令和3年9月20日(月・祝)に、日本学術会議近畿地区会議と京都大学は、地域社会の学術の振興に寄与することを目的として、日本学術会議近畿地区会議 学術講演会「カーボンニュートラル：2050年までに何をすべきか」を開催しました(オンライン開催)。

冒頭に、小山田耕二 日本学術会議近畿地区会議代表幹事(京都大学学術情報メディアセンター教授)及び高村ゆかり 日本学術会議副会長の挨拶の後、下條真司 大阪大学サイバーメディアセンター長より本講演会の趣旨説明が行われました。

続いて、大阪大学大学院法学研究科 大久保規子教授による「カーボンニュートラル — 持続可能な社会に向けて」と題した基調講演が行われ、積水ハウス株式会社 近田智也 環境推進部長兼温暖化防止推進室長より「住まいの脱炭素化への取り組み」、京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻 藤森真一郎准教授より「長期気候緩和シナリオ研究とカーボンニュートラル」、京都大学大学院地球環境学堂地球環境政策論分野・Fridays For Future Japan 内藤光里氏より「Z世代と気候変動」について話題提供がありました。

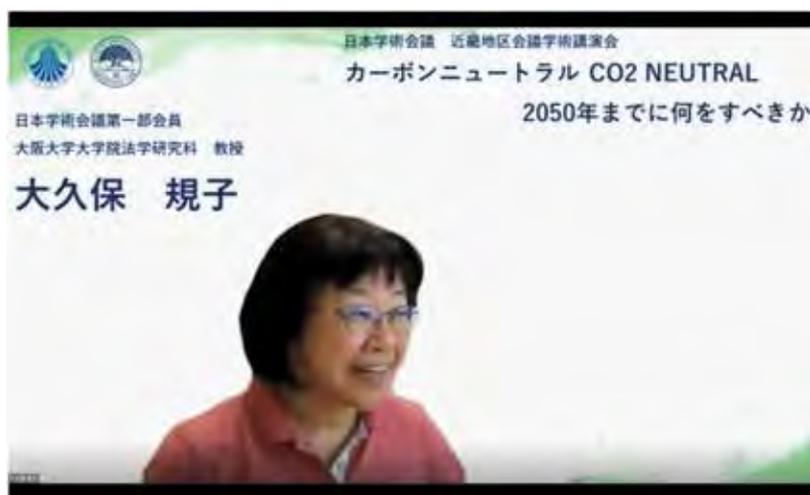
講演後には、パネリストとして京都市環境政策局地球温暖化対策室 永田綾 エネルギー政策部長、

神戸大学経済経営研究所 西谷公孝副所長が加わり、下條真司 大阪大学サイバーメディアセンター長の進行によるパネル討論が行われました。また、オンライン参加者からも多数の質問が寄せられ、積極的な質疑応答が繰り広げられました。

最後に、京都大学大学院法学研究科 高山佳奈子教授より閉会挨拶があり、盛況のうちに終了しました。

本講演会には 320 名の参加があり、終了後のアンケートでは「カーボンニュートラルについて、学術的な見解や新しい情報を得ることができて大変参考になった」、「法学の視点、企業、自治体、若者の意見など幅広い立場からの講演を聞くことができたのでよかった」などの感想が寄せられました。

講演する大久保教授



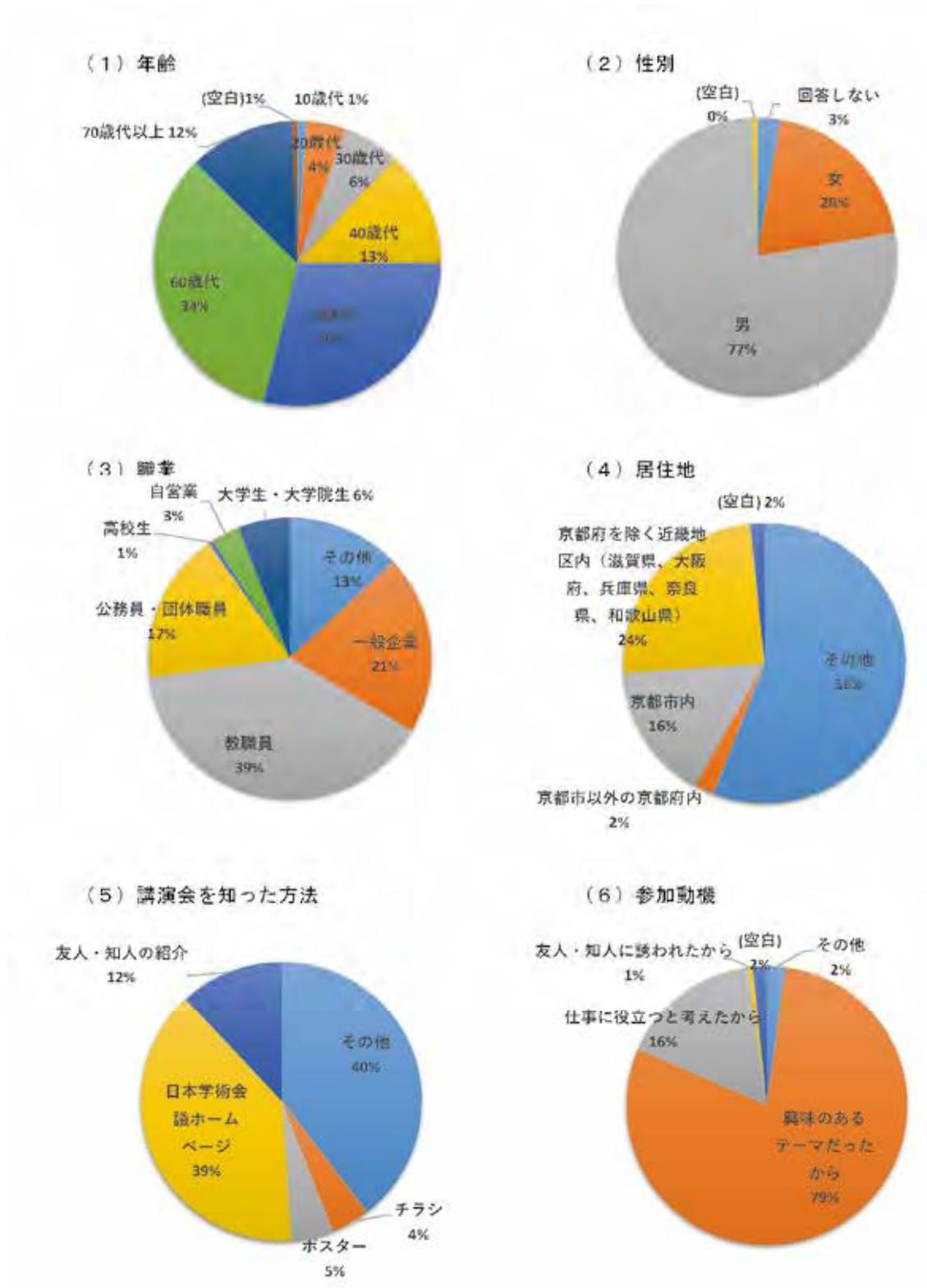
パネル討論の様子



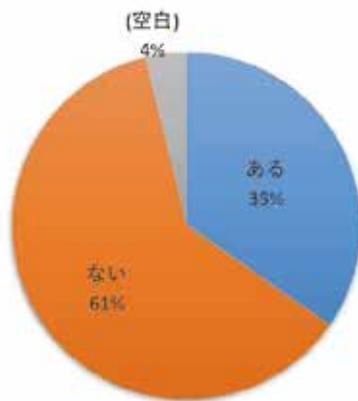
令和3年日本学術会議近畿地区会議学術講演会

「カーボンニュートラル：2050年までに何をすべきか」アンケート集計表

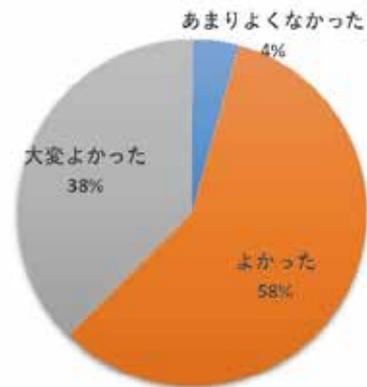
【講演会参加：320名 回答：184名】



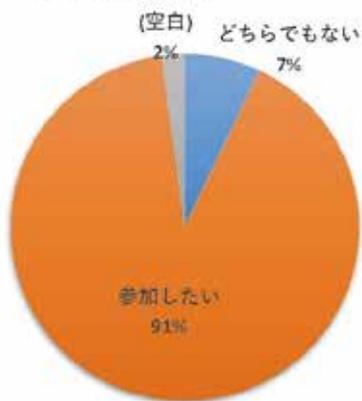
(7) 今までの参加有無



(8) 講演会の内容



(9) 今後参加したいか



*** 日本学術会議近畿地区会議とは ***

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信の下、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和 24 年（1949 年）1 月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立されました。

職務は、以下の 2 つです。

1. 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
2. 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野の約 87 万人の科学者を内外に代表する機関であり、210 人の会員と約 2000 人の連携会員によって職務が担われています。

日本学術会議の役割は、主に（Ⅰ）政府に対する政策提言、（Ⅱ）国際的な活動、（Ⅲ）科学者間ネットワークの構築、（Ⅳ）科学の役割についての世論啓発です。

日本学術会議には、地域の科学者と意思疎通を図るとともに学術の振興に寄与することを目的として、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の 7 つの地域に地区会議が置かれています。これらの地区会議は、地域の求める情報に即したテーマを設定した学術講演会の開催や科学者との懇談会、地区会議ニュースの発行などを行っています。

地区会議運営協議会は、当該地区に居住する会員又は勤務地を有する会員の中から各部ごとに選出された会員 9 名（令和 4 年 2 月時点）で構成されており、現在、近畿地区会議においては、第 3 部会員の小山田耕二（京都大学学術情報メディアセンター教授）が代表幹事を務めています。

※「日本学術会議地区会議運営要綱」は以下のリンク先よりご覧ください（PDF 形式）。

<https://www.scj.go.jp/ja/scj/kisoku/15.pdf>

近畿地区会議運営協議会

代表幹事	小山田 耕 二	（第 3 部）
	高 山 佳奈子	（第 1 部）
	矢 野 桂 司	（第 1 部）
	光 富 徹 哉	（第 2 部）
	村 山 美 穂	（第 2 部）
	齋 藤 政 彦	（第 3 部）
	下 條 真 司	（第 3 部）
	伊 藤 公 雄	（連携会員）
	伊 藤 宏 幸	（連携会員）

近畿地区会議事務局

〒606-8501
 京都市左京区吉田本町
 京都大学 研究推進部研究推進課内
TEL: 075-753-2041
FAX: 075-753-2042
 メールアドレス
kensui.soumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

日本学術会議ホームページ

<https://www.scj.go.jp/index.html>